

コレット・イングリッシュ
旅行の文化に関する日本とアメリカの大学生の意識調査

1. 私はコレット・イングリッシュと申します。私の卒業論文は旅行の文化に関する日本とアメリカの大学生の意識調査です。どうぞよろしくおねがいします。
2. こちらは概要です。
3. これは私の研究の重要性です。私は岡山大学に留学をした時に、旅行が好きになりました。なぜ人は旅行が好きか、好きではないか、について知りたいと思いました。アンケート調査を通して理想的な旅行とは何か、また宣伝広告の影響について研究しました。
4. こちらが研究質問です。一、大学生はどのような理由で旅行するのか。二、どのように宣伝・広告が大学生の旅行の計画に影響を与えているのか。
5. それでは、研究背景について説明致します。まずは、個人旅行と団体旅行について話します。Watkins と Gnoth によると、個人旅行は狭い島国である日本を離れることで、自身の視野や知識、経験を広げ、より良い人間関係を築くことを目的とし、自分自身を高め、新しいことに挑戦しようとする人たちに向いていると定義しています。その一方、団体旅行は安全で企画されたグループでの行動を好み、落ち着ける場所、自然に囲まれた環境、と時間を楽しむことを求めます。
6. 次は流行の日本における観光産業です。Watkins と Gnoth によると、「日本人の旅行に関する各種調査の結果、人々は自然や眺めの良いビーチだけでなく、現代の文化や歴史に残る名所を好むことがわかった」と言っています。パッケージツアーはすでに他者、つまり旅行会社に企画された旅行を指します。「ふるさと」は年代を超えても、歴史を思い返し、独自の日本文化、生活スタイルを守り続けるための旅行を指し、主に第二次世界大戦の前の日常生活に基づきます。里山は自然と共存する人々の生活を見たり、体験する旅行を言います。最後に、グリーンツーリズムは 農民の人たちと一笑に住んで、実際に農業を体験する旅行の事を指します。
7. アメリカにも流行の観光産業があります。ハイキングやキャンプなどの課外活動は観光業において二番目に人気があります。地方における観光業は色々な種類のツーリズムを組み合わせています。例えば歴史史跡巡りや、ハイキング、レジャー、釣りや狩りなどで、これらは多くの旅行者に人気です。エコツーリズムは環境に配慮し、生態系への影響を最小限に抑えながら観光を楽しむことです。最後はアグリツーリズムです。これは自然や動物と触れ合いながら、農業を学び、楽しむことです。
8. これは上の二つのスライドによって、簡単に両者を比較できます。
9. 旅行に大事なものは広告です。この研究のために私は活字メディアとオンライン広告について調べました。オンライン広告が広まる以前、紙の広告が主流でした。インターネットの普及により、多くの人が旅行を手軽に計画できるようになりました。Zhang によると、「オンライン広告は『より良い商品やサー

- ビスを求めながら、企業はさまざまなニーズや需要を満たし、1対1の関係を築くために市場を展開する』と定義しています」。
10. こちらは広告による効果です。旅行者は旅行先を調べる前に、すでに旅行先を決めているといわれています。それは広告が旅行計画に及ぼす影響に大きく関与していることを示しています。以前から使われた広告研究(DMO)は旅行者の旅行計画の決定に参考になる十分な情報がありません。筆者達によると「DMO 宣伝活動は The Destination Advertising Response によって効率良く変化している」と言っています。旅行先を宣伝する際にアトラクションやレストランは魅力的な点であるが、実際にはそれほど影響していない、という結果がでています。
 11. こちらはアメリカの学生の旅行の傾向です。学生などの若者が旅行をする際、経済面は非常に重要です。2009年に行われた研究では、以前、旅行者は女性よりも男性の方が多かったですが、今は女性の方が多いです。そして年齢が高くなるにつれて、個人旅行の回数は増えます。以前よりも、若者が旅行する頻度は4%ほど減り、距離も18%ほど短くなりました。
 12. これは様々な日本の大学生の旅行統計を示しています。上のグラフは日本人の大学生が社会人ほど旅行しないということを表しており、社会人と比べると、大学生の3分の1は全く旅行しないことが分かります。下のグラフは1997年から2007年にかけて、日本の不景気により旅行者が減ったことを示しています。そして1997年では、20%の若者が海外旅行をしていましたが、2007年には17%にまで落ち込みました。
 13. ではここで私が行った研究について話します。この調査にはオンラインアンケートを通して60人の大学生に参加してもらいました。内訳は日本人30人、アメリカ人30人です。
 14. それでは、研究質問1について結果を発表致します。
 15. このグラフは、学生たちにとっての旅行の楽しさを示しています。1人のアメリカの大学生を除いて、全員が旅行するのは楽しいと答えました。
 16. 次に旅行の定義について話します。この赤い枠から、アメリカと日本の学生の過半数は旅行を長い期間のものであると認識しているという事を表しています。
 17. こちらはアメリカ人と日本人の旅行の種類の比較です。両者とも週末旅行が1番楽しめる旅行であるようです。アメリカ人には、車での長旅が2番目に人気ですが、日本人には世界自然遺産巡りが人気があるようです。
 18. こちらもアメリカと日本を比較しています。両者共、夏休みが最適であると答えましたが、
 19. アメリカと日本の大学の休暇期間の違いがパーセンテージに影響を及ぼす結果となりました。
 20. 次に旅行の頻度について話します。アメリカの大学生に比べて、日本の大学生は旅行する頻度がやや多いです。アメリカ人は日本人よりも「非常に稀に」か「全く行かない」と答えた人が多かったです。
 21. このグラフはツーリズムの種類を表しています。両者にとって、明らかに個人旅行が1番人気なツーリズムです。

22. こちらは旅行の便利な点・不便な点についてです。赤い枠はアメリカ人、黄色い枠は日本人の便利な点で、紫色の枠はアメリカ人と日本人の不便な点です。日本の大学生は新しい文化や食べ物を楽しむ傾向がありますが、アメリカ人にとってはリラックスできる場やアドベンチャーのスリルを味わえるものが旅行の醍醐味であるようでした。
23. こちらのグラフは旅行における費用についてです。アメリカの大学生は一般的に長期旅行にお金を使う傾向がある一方、日本の大学生はアメリカの大学生より週末旅行にお金を使う、ということが分かりました。
24. 次はお金の影響についてです。このグラフから両者にとって、お金は旅行の頻度に強く影響する、という事が分かります。
25. ここで研究質問1の結果をまとめたいと思います。まず、日本とアメリカの大学生は共に旅行を楽しみますが、それぞれ楽しむ理由が違います。そして日本の大学生より、アメリカの大学生の方が旅行することに対してははっきりとした理由・目的があります。また、旅行をする時、日本とアメリカの大学生両者とも金銭面を考えて、予算を決めスケジュールを組みます。
26. 次は研究質問2です。これから広告について話します。
27. ここで赤い枠は日本の大学生が旅行広告に非常に影響される、ということを表しています。
28. そして、このグラフは「なぜ広告を使わない」という理由を示しています。両者の学生とも「知人から情報を得ることができるから」、「広告では値段を載せていないから」といった理由で広告を必要としません。
29. 次に広告の種類について話します。日本では活字広告が、アメリカではテレビの広告が1番効果があります。
30. 最後は旅行の決め手です。旅行広告のもっとも有力な点は**観光名所**、そして**値段**です。
31. ここで研究質問2をまとめます。まず、日本は活字広告が普及しているので、色々なところで広告を見つけることが出来ます。例えば地下鉄の駅やバス停などです。そしてアメリカでは広告があまり身近なものではないので、アメリカの大学生はあまり広告を参考にしません。最後に金銭面は旅行の頻度に深く関わっていますが、価値がある観光だと、学生はもっとお金を使うようになります。
32. これがこの研究の結論です。日本とアメリカの大学生の旅行する主な理由は、新しい文化を体験することです。そして日本人の学生は短い期間でより多くの場所を旅行することを好み、その短い旅行にお金を使う傾向があります。その一方、アメリカ人は一つの場所又はその近辺の長期旅行にお金を使います。旅行をする際、日本の学生は広告を参考にしますが、アメリカの学生はあまり参考にしません。観光名所と値段は旅行を計画するのに重要である事がわかりました。最後に両者とも費用や旅行する時間、又旅行する理由などは似ていますが、広告の参考の仕方が異なることがわかりました。
33. 最後に考察です。研究の限界点と将来の研究課題について考え見ました。今回は60人の参加者による研究でしたが、より多くの学生を調査することにて、

より具体的な結果が得られると思います。そしてより幅広い地域に住んでいる学生を対象にすると、異なる結果が得られるかもしれないとも考えました。また、海外旅行も含めることで研究も広がるはずです。更に社会人と大学生の旅行形態も比べてみたり、またソーシャルメディアと旅行会社の比較をしても興味深いと思います。

34. こちらは参考文献です。
35. こちらも参考文献です。
36. そしてメディアリソース です。
37. 最後に、ご指導くださった先生方と支えてくれた。家族や友達に感謝をいたします。ありがとうございました。